



平成 28 年 3 月 14 日

港湾局技術企画課

実態調査を踏まえてケーソン製作工や石材投入工の歩掛等を改定 ～国土交通省港湾請負工事積算基準等の改定～

港湾の土木請負工事等の積算価格を算出する基準となる「国土交通省港湾請負工事積算基準」と「船舶および機械器具等の損料算定基準」について、改定を行うこととしました。

なお、本基準の適用は、平成 28 年 4 月 1 日以降とします。

1. 港湾請負工事積算基準の改定について

港湾請負工事積算基準は、港湾等の土木請負工事及び測量・土質調査業務等の予定価格の基礎となる積算価格を算出する基準としているものであり、実態調査の結果を基に基準との乖離が確認された工種について、改定を行っています。

今般、実態調査の結果により 3 工種 11 項目について改定します。

<改定のポイント>

○実態調査の結果による石材投入工における施工能力の見直し、ケーソン製作工における作業機械の運転日数の見直し等により歩掛を改定します。

2. 船舶及び機械器具等の損料算定基準の改定について

船舶及び機械器具等の損料算定基準は、港湾等の土木請負工事及び測量・土質調査業務等の予定価格の基礎となる積算価格を算出するため、作業船等の供用日当り損料等を定めているものであり、実態調査を基に 2 年毎に改定を行っています。

今般、新造船が確認された船種の基礎価格の見直し、実態調査の結果による維持管理費の見直しにより損料算定表を改定します。

<改定のポイント>

○基礎価格及び維持管理費を見直した 12 船種において供用日当り損料額を 1%～8% 上げます。(全船種平均で供用日当り損料額が 2%UP)

【問い合わせ先】

国土交通省港湾局技術企画課

港湾工事安全推進官 加藤 (内線 46535)

安全管理係長 桜井 (内線 46523)

建設企画係長 沓澤 (内線 46524)

T E L 代表 03-5253-8111、直通 03-5253-8677

F A X 03-5253-1652

港湾請負工事積算基準は、港湾・海岸の土木請負工事及び測量・土質調査業務等の予定価格の基礎となる積算価格を算出するためのものである。今回、施工の実態等を的確に反映した予定価格を適正に設定するため、実態調査の結果を基に歩掛等の改定を実施。改定内容の詳細については、国土交通省港湾局HP掲載の「平成28年度港湾請負工事積算基準の改定について(新旧対比表)」を参照。

→http://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_fr5_000019.html

1. 施工歩掛等の改定

(1) 石材投入工

→施工能力の見直し

(2) ケーソン製作工

→作業機械の運転日数等の見直し

1. 施工歩掛等の改定

(1) 石材投入工 (基礎工)

① 基礎捨石

改定内容：施工能力の見直し

(1) 能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量 (扱い数量、 $\text{m}^3/\text{日}$)
 q : 潜水士船1日当り標準投入指示量 ($850\text{m}^3/\text{日}$)
 E_1 : 水深区分能力補正係数
 E_2 : 施工規模区分能力補正係数

(2) 能力係数等

係数区分		補正係数	摘要
E_1	水深区分	10m未満	-0.25
		10~20m未満	0.00
		20m以上	0.20
E_2	施工規模区分	$1,000\text{m}^3$ 未満	-0.05
		$1,000 \sim 5,000\text{m}^3$ "	0.00
		$5,000 \sim 10,000\text{m}^3$ "	0.20
		$10,000\text{m}^3$ 以上	0.35



(1) 能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量 (扱い数量、 $\text{m}^3/\text{日}$)
 q : 潜水士船1日当り標準投入指示量 ($900\text{m}^3/\text{日}$)
 E_1 : 水深区分能力補正係数
 E_2 : 施工規模区分能力補正係数

(2) 能力係数等

係数区分		補正係数	摘要
E_1	水深区分	10m未満	-0.25
		10~20m未満	0.00
		20m以上	0.05
E_2	施工規模区分	$1,000\text{m}^3$ 未満	-0.25
		$1,000 \sim 5,000\text{m}^3$ "	0.00
		$5,000 \sim 10,000\text{m}^3$ "	0.30
		$10,000\text{m}^3$ 以上	0.45

1. 施工歩掛等の改定

(1) 石材投入工 (被覆・根固工)

② 被覆石

改定内容：施工能力の見直し

(1) 能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量 (扱い数量、 m^3 /日)
 q : 潜水士船1日当り標準投入指示量 ($800m^3$ /日)
 E_1 : 水深区分能力補正係数
 E_2 : 施工規模区分能力補正係数

(2) 能力係数等

係数区分		補正係数	摘要
E_1	水深区分	10m未満	-0.25
		10~20m未満	0.00
		20m以上	0.20
E_2	施工規模区分	1,000 m^3 未満	-0.05
		1,000~5,000 m^3 "	0.00
		5,000~10,000 m^3 "	0.20
		10,000 m^3 以上	0.35



(1) 能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量 (扱い数量、 m^3 /日)
 q : 潜水士船1日当り標準投入指示量 ($850m^3$ /日)
 E_1 : 水深区分能力補正係数
 E_2 : 施工規模区分能力補正係数

(2) 能力係数等

係数区分		補正係数	摘要
E_1	水深区分	10m未満	-0.25
		10~20m未満	0.00
		20m以上	0.05
E_2	施工規模区分	1,000 m^3 未満	-0.25
		1,000~5,000 m^3 "	0.00
		5,000~10,000 m^3 "	0.30
		10,000 m^3 以上	0.45



1. 施工歩掛等の改定

(1) 石材投入工（裏込・裏埋工）

③ 裏込材

改定内容：施工能力の見直し

(1) 投入指示量

①能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量 (扱い数量、 m^3 /日)
 q : 潜水士船1日当り標準投入指示量 ($950m^3$ /日)
 E_1 : 水深区分能力補正係数
 E_2 : 施工規模区分能力補正係数

②能力係数等

係数区分		補正係数	摘要
E_1	水深区分	10m未満	-0.25
		10~20m未満	0.00
		20m以上	0.20
E_2	施工規模区分	1,000 m^3 未満	-0.05
		1,000 m^3 ~ 5,000 m^3 未満	0.00
		5,000 m^3 ~ 10,000 m^3 未満	0.20
		10,000 m^3 ~ 10,000 m^3 以上	0.35
		10,000 m^3 以上	0.35



(1) 投入指示量

①能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量 (扱い数量、 m^3 /日)
 q : 潜水士船1日当り標準投入指示量 ($1,000m^3$ /日)
 E_1 : 水深区分能力補正係数
 E_2 : 施工規模区分能力補正係数

②能力係数等

係数区分		補正係数	摘要
E_1	水深区分	10m未満	-0.25
		10~20m未満	0.00
		20m以上	0.05
E_2	施工規模区分	1,000 m^3 未満	-0.25
		1,000 m^3 ~ 5,000 m^3 未満	0.00
		5,000 m^3 ~ 10,000 m^3 未満	0.30
		10,000 m^3 ~ 10,000 m^3 以上	0.45
		10,000 m^3 以上	0.45



1. 施工歩掛等の改定

(1) 石材投入工（裏込・裏埋工）

④ 裏込材（瀬取り）

改定内容：施工能力の見直し

2-3 施工歩掛

1) 作業能力

(1) 投入指示量

①能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \times E_3 \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量 (扱い数量、m³/日)

q : 潜水士船1日当り標準投入指示量 (950m³/日)

E₁ : 水深区分能力補正係数

E₂ : 施工規模区分能力補正係数

E₃ : 投入区分能力補正係数

②能力係数等

係数区分		補正係数	摘要	
E ₁	水深区分	10m未満	平均干潮面 (M. L. W. L.) からの現地盤水深をいう。	
		10~20m未満		0.00
		20m以上		0.20
E ₂	施工規模区分	1,000m ³ 未満	施工規模区分には、材料割増しを含む。また、投入指示量に係わず、全投入量によるものとする。	
		1,000m ³ ~		0.00
		5,000m ³ 未満		0.20
		10,000m ³ 未満		0.35
		10,000m ³ 以上		0.35
E ₃	投入区分	瀬取り投入	下表参照	

投入区分の選定

	自積方式	台船方式	二次投入方式
E ₃	0.39	0.28	0.54

2-3 施工歩掛

1) 作業能力

(1) 投入指示量

①能力算定式

$$Q = q \times (1.00 + E_1 + E_2) \times E_3 \quad (\text{小数1位四捨五入})$$

Q : 潜水士船1日当り投入指示量 (扱い数量、m³/日)

q : 潜水士船1日当り標準投入指示量 (1,000m³/日)

E₁ : 水深区分能力補正係数

E₂ : 施工規模区分能力補正係数

E₃ : 投入区分能力補正係数

②能力係数等

係数区分		補正係数	摘要	
E ₁	水深区分	10m未満	平均干潮面 (M. L. W. L.) からの現地盤水深をいう。	
		10~20m未満		0.00
		20m以上		0.05
E ₂	施工規模区分	1,000m ³ 未満	施工規模区分には、材料割増しを含む。また、投入指示量に係わず、全投入量によるものとする。	
		1,000m ³ ~		0.00
		5,000m ³ 未満		0.30
		10,000m ³ 未満		0.45
		10,000m ³ 以上		0.45
E ₃	投入区分	瀬取り投入	下表参照	

投入区分の選定

	自積方式	台船方式	二次投入方式
E ₃	0.40	0.25	0.70

1. 施工歩掛等の改定

(2) ケーソン製作工

① ケーソン製作

改定内容：製作日数の見直し

2) 1サイクル当り基本日数(Cm´)

名称	単位	ケーソン製作用台船方式・陸上施工方式・海上打継方式				
		普通ケーソン			スリット・異形ケーソン	
		8マス まで	9マス以上 ~ 20マスまで	21マス以上 ~ 30マスまで	8マス まで	9マス以上 ~ 20マスまで
1層当り基本日数	日	6	7.5	10	7	9
1サイクル当り基本日数(Cm´)	〃	6.0×層数 -2	7.5×層数 -2	10.0×層数 -2	7.0×層数 -2	9.0×層数 -2

- 注) 1. 1層当り基本日数は、鉄筋加工組立～型枠外しまでの日数とする。
 2. ケーソン製作用台船方式で同時製作函数3函以上の場合は、形状寸法、マス数、クレーン基数等を考慮して別途定めることができる。



2) 1サイクル当り基本日数(Cm´)

名称	単位	ケーソン製作用台船方式・陸上施工方式・海上打継方式		
		普通ケーソン		その他ケーソン
		20マス まで	21マス以上 30マスまで	20マス まで
1層当り基本日数	日	7.5	10	7.5
1サイクル当り基本日数(Cm´)	〃	7.5×層数 -2	10.0×層数 -2	7.5×層数 -2

- 注) 1. 1層当り基本日数は、鉄筋加工組立～型枠外しまでの日数とする。
 2. ケーソン製作用台船方式で同時製作函数3函以上の場合は、形状寸法、マス数、クレーン基数等を考慮して別途定めることができる。



1. 施工歩掛等の改定

(2) ケーソン製作工

① ケーソン製作

改定内容：製作日数の見直し

 4) 関連日数 (K₂)

名 称	単 位	ケーソン製作用台船方式・陸上施工方式		海上打継方式	
		普通ケーソン	スリット・異形ケーソン	普通ケーソン	
		30マスまで	20マスまで	20マスまで	21~30マスまで
ルーフィング敷設	日	0.5		-	
アスファルト工場製作	日	1		-	
マット設置	現場製作	アスファルトマット製作日数を計上		-	
ゴム系マット設置	日	1		-	
注水・仮置	日	-		0.5	
支保組立	日	-		1	
足場組立	日	-		1	
ハラスト	砂・石材	0.5		0.5	
材投入	コンクリート	1		1	
止水板取付	日	-	0.5	-	
進水	日	1		-	
浮上	日	-	-	0.5	1

注) 1.アスファルトマットまたはゴム系マットの設置がある場合は、ルーフィング敷設は計上しない。
2.海上打継方式で、スリット、異形ケーソンの場合は、現場条件を考慮して別途算定する。

 5) 最終養生日数 (K₃)

名 称	単 位	ケーソン製作用台船方式・陸上施工方式		海上打継方式
		普通ケーソン	スリット・異形ケーソン	普通ケーソン
		30マスまで	20マスまで	30マスまで
最終養生日数	日	6 (進水を伴う場合)		6
		3 (進水を伴わない場合)		

注) 1.最終養生日数とは、最終層の養生日数ならびに最終型枠組外の日数である。
なお、ケーソン製作用台船方式、陸上施工方式の進水を伴う場合の最終養生日数は、6日を標準とするが、これにより難しい場合には必要に応じて別途日数を加算することができる。
2.海上打継方式で、スリット、異形ケーソンの場合は、現場条件を考慮して別途算定する。
3.吊降し方式の場合は、現場条件を考慮して別途算定する。

 4) 関連日数 (K₂)

名 称	単 位	ケーソン製作用台船方式・陸上施工方式		海上打継方式	
		普通ケーソン	スリット・異形ケーソン	普通ケーソン	
		30マスまで	20マスまで	20マスまで	21~30マスまで
ルーフィング敷設	日	0.5		-	
アスファルト工場製作	日	1		-	
マット設置	現場製作	アスファルトマット製作日数を計上		-	
ゴム系マット設置	日	1		-	
注水・仮置	日	-		0.5	
支保組立	日	-		1	
足場組立	日	-		1	
ハラスト	砂・石材	1		0.5	
材投入	コンクリート	1		1	
止水板取付	日	-	0.5	-	
進水	日	1		-	
浮上	日	-	-	0.5	1

注) 1.アスファルトマットまたはゴム系マットの設置がある場合は、ルーフィング敷設は計上しない。
2.海上打継方式で、スリット、異形ケーソンの場合は、現場条件を考慮して別途算定する。

 5) 最終養生日数 (K₃)

名 称	単 位	ケーソン製作用台船方式・陸上施工方式		海上打継方式
		普通ケーソン	スリット・異形ケーソン	普通ケーソン
		30マスまで	20マスまで	30マスまで
最終養生日数	日	6		6

注) 1.最終養生日数とは、最終層の養生日数ならびに最終型枠組外の日数である。
なお、最終養生日数は、6日を標準とするが、これにより難しい場合には必要に応じて別途日数を加算することができる。
2.海上打継方式で、スリット、異形ケーソンの場合は、現場条件を考慮して別途算定する。
3.吊降し方式の場合は、現場条件を考慮して別途算定する。

1. 施工歩掛等の改定

(2) ケーソン製作工

② ケーソン製作用台船

改定内容：引船規格の見直し

2) ケーソン製作用台船運転

区 分	台 船	引 船	摘 要
F D 鋼1,300~7,000t積	鋼 100 t 積	鋼D 200PS型	
D D 鋼1,300~2,500t積			

注) 1. 台船は、資機材等の置場をケーソン製作用台船上および周辺に確保できない場合に計上する。

2. 引船は、現場条件により計上することができる。



2) ケーソン製作用台船運転

区 分	台 船	引 船	摘 要
F D 鋼1,300~7,000t積	鋼 100 t 積	鋼D 1,000PS型	
D D 鋼1,300~2,500t積			

注) 1. 台船は、資機材等の置場をケーソン製作用台船上および周辺に確保できない場合に計上する。

2. 引船は、現場条件により計上することができる。



1. 施工歩掛等の改定

(2) ケーソン製作工

③ 枠組足場架払

改定内容：作業機械の運転日数の見直し

(1) 鋼製枠組足場架払 100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量						摘要
			ケーソン製作用台船方式 (FD)	陸上施工方式		海上打継方式			
				ケーソン製作用台船方式 (DD)	陸上クレーン	貸与クレーン	陸上クレーン	貸与クレーン	
鋼製枠組足場架払	クレーン抜き	m ²	100						市場単価
ラフテレーンクレーン	(油) 25t吊	日	0.1	-	-	-	-	-	標準運転時間
ラフテレーンクレーン または クローラクレーン	(油) t吊	"	-	0.3	-	0.3	-	-	標準運転時間
貸与クレーン運転費	t吊	"	-	-	0.3	-	0.3	-	
クレーン付台船 または 起重機船	非航旋回鋼D	t吊	-	-	-	-	-	0.3	運6H/就8H
引船	鋼D PS型	"	-	-	-	-	-	0.3	運2H/就8H



(1) 鋼製枠組足場架払 100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量						摘要
			ケーソン製作用台船方式 (FD)	陸上施工方式		海上打継方式			
				ケーソン製作用台船方式 (DD)	陸上クレーン	貸与クレーン	陸上クレーン	貸与クレーン	
鋼製枠組足場架払	クレーン抜き	m ²	100						市場単価
ラフテレーンクレーン	(油) 25t吊	日	0.2	-	-	-	-	-	標準運転時間
ラフテレーンクレーン または クローラクレーン	(油) t吊	"	-	0.3	-	0.3	-	-	標準運転時間
貸与クレーン運転費	t吊	"	-	-	0.3	-	0.3	-	
クレーン付台船 または 起重機船	非航旋回鋼D	t吊	-	-	-	-	-	0.3	運6H/就8H
引船	鋼D PS型	"	-	-	-	-	-	0.3	運2H/就8H



1. 施工歩掛等の改定

(2) ケーソン製作工

④ 内足場架払

改定内容：作業機械の運転日数の見直し

(1) 内足場架払 100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量					摘要	
			ケーソン製作用台船方式(FD)	陸上施工方式		海上打継方式			
				ケーソン製作用台船方式(DD)	貸与クレーン	陸上クレーン	貸与クレーン		海上クレーン
内足場架払	クレーン抜き	m ²	100					市場単価	
ラフテレーンクレーン	(油) 25t吊	日	0.1	—	—	—	—	標準運転時間	
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油) t吊	日	—	0.3	—	0.3	—	標準運転時間	
貸与クレーン運転費	t吊	日	—	—	0.3	—	0.3	—	
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回鋼D	日	—	—	—	—	0.3	運6H/就8H	
引船	鋼D PS型	日	—	—	—	—	0.3	運2H/就8H	



(1) 内足場架払 100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量					摘要	
			ケーソン製作用台船方式(FD)	陸上施工方式		海上打継方式			
				ケーソン製作用台船方式(DD)	貸与クレーン	陸上クレーン	貸与クレーン		海上クレーン
内足場架払	クレーン抜き	m ²	100					市場単価	
ラフテレーンクレーン	(油) 25t吊	日	0.2	—	—	—	—	標準運転時間	
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油) t吊	日	—	0.3	—	0.3	—	標準運転時間	
貸与クレーン運転費	t吊	日	—	—	0.3	—	0.3	—	
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回鋼D	日	—	—	—	—	0.3	運6H/就8H	
引船	鋼D PS型	日	—	—	—	—	0.3	運2H/就8H	



1. 施工歩掛等の改定

(2) ケーソン製作工

⑤ 型枠

改定内容：作業機械の運転日数の見直し

(1) 鋼製型枠組立組外 100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量					摘要	
			ケーソン製作用台船方式(FD)	陸上施工方式		海上打継方式			
				ケーソン製作用台船方式(DD)	貸与クレーン	陸上クレーン	貸与クレーン		海上クレーン
鋼製型枠組立組外	クレーン抜き	m ²	100		100			市場単価	
ラフテレーンクレーン	(油) 25t吊	日	0.1	—	—	—	—	標準運転時間	
ラフテレーンクレーン またはクローラクレーン	(油) t吊	〃	—	0.7	—	0.7	—	標準運転時間	
貸与クレーン運転費	t吊	〃	—	—	0.7	—	0.7	—	
クレーン付台船 または起重機船	t吊 非航旋回鋼D	〃	—	—	—	—	0.7	運6H/就8H	
引船	〃 鋼D PS型	〃	—	—	—	—	0.7	運2H/就8H	



(1) 鋼製型枠組立組外 100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量					摘要	
			ケーソン製作用台船方式(FD)	陸上施工方式		海上打継方式			
				ケーソン製作用台船方式(DD)	貸与クレーン	陸上クレーン	貸与クレーン		海上クレーン
鋼製型枠組立組外	クレーン抜き	m ²	100		100			市場単価	
ラフテレーンクレーン	(油) 25t吊	日	0.4	—	—	—	—	標準運転時間	
ラフテレーンクレーン またはクローラクレーン	(油) t吊	〃	—	0.4	—	0.7	—	標準運転時間	
貸与クレーン運転費	t吊	〃	—	—	0.7	—	0.7	—	
クレーン付台船 または起重機船	t吊 非航旋回鋼D	〃	—	—	—	—	0.7	運6H/就8H	
引船	〃 鋼D PS型	〃	—	—	—	—	0.7	運2H/就8H	



2. 船舶および機械器具等の損料算定基準の改定

- ◆ 作業船等の損料算定基準は実態調査結果を基に2年に1回のサイクルで改定
 - ・実態調査は港湾・空港土木工事で使用する作業船等を保有する会社を対象に実施
 - ・調査項目：購入価格、運転時間、運転日数、維持修理費、管理費等
- ◆ 損料算定表の改定概要（平成28年4月以降適用）
 - ・新造船価及び維持管理費の上昇等により、12船種において供用日当たり損料額で1%～8%上昇

分類	船種・分類	比較 基準年度	基礎 価格	標準 使用年数	年間標準 運転時間	年間標準 運転日数	年間標準 供用日数	維持 修理費率	年間 管理費率	日当り 損料額
主 作 業 船	ポンプ浚渫船(1,100PS未満)	H26	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.14	1.00	1.05
	ポンプ浚渫船(1,100PS以上)	H26	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.23	1.00	1.04
	グラブ浚渫船(3.5m3未満)	H26	1.06	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.06
	グラブ浚渫船(3.5m3以上)	H26	1.03	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.02
	グラブ浚渫船(3.5m3以上)スパッド方式、岩盤用	H26	1.07	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07
	起重機船 旋回(400t吊未満)	H26	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01
	起重機船 旋回(400t吊以上)	H26	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01
	クレーン付台船	H26	1.01	1.00	—	—	1.00	1.00	1.00	1.03
	コンクリートミキサー船	H26	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.13	1.00	1.03
	上記以外の主作業船(15船種)(※1)	H26	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
付 属 作 業 船	揚錨船	H26	1.05	1.00	—	1.00	1.00	1.00	1.00	1.05
	引船(鋼製)	H26	1.08	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.08
	交通船(鋼製)	H26	1.03	1.00	—	1.00	1.00	1.00	1.00	1.02
	潜水土船	H26	1.02	1.00	—	1.00	1.00	1.10	1.00	1.05
	土運船	H26	1.00	1.00	—	1.00	1.00	1.10	1.00	1.02
	台船	H26	1.02	1.00	—	1.00	1.00	1.00	1.00	1.02
	上記以外の付属作業船(7船種)(※2)	H26	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
全船種平均									1.02	

(※1) 汚泥浚渫船、バックホウ浚渫船、マイクロポンプ船、リクレーマ船、バージアンローダ船、空気圧送船、自航起重機船(固定)、自航起重機船(旋回)、起重機船(固定)、杭打船、ケーソン製作用台船、自己昇降式台船、深層混合処理船、サンドドレーン船、サンドコンパクション船

(※2) 押船、交通船(FRP船)、ガット船、ガットバージ、石運船、押航土運船、スパット台船